

## 『悪魔との戦い③』

'23/06/18



聖書箇所: エペソ人への手紙 6 章 10-14 節 (新約 p.381)

先週と先々週、私たちは「悪魔との戦い」ということについて学んできました…。改めて言うまでもありませんが、悪魔という存在は実在します。決して、空想上の生き物ではありません！今も、生きて…、この世を惑わし…、この世の中全体を悪い方向へと導いて…、多くの人たちを道連れにしようとしているのです！私たちは、そのような…、悪魔や悪霊たちといった存在が、それこそ、絶え間なく…、神様の御計画を邪魔しようとして…、忙しく働いているという現実を決して忘れてはなりません…。

もしも、私たちクリスチャンに戦わなければならない敵(=相手)がいるなら…、それは、皆さんに悪口を言ってくるような知人や、なかなか福音のメッセージを受け入れてくれないご友人の方たちではありません。すべての者の背後にあって…、間接的に、皆さんのことを苦しめようとしている悪魔やそれにつき従っている悪霊たちなのです…。

### 命題: 悪魔との戦いに勝利するためには？

野球であろうと…、あるいは、ボクシングであろうと…、それが戦いや勝負事であれば、私たちは勝利することを期待して…、その戦うべき相手というものを想定して、練習して、戦いに挑もうとします…。それと同じように、私たちは悪魔とそれらの勢力というものを知って…、それらを意識して、日々、生きていくことが必要だと、みことばは教えてくれています…。

もしも、私たちが悪魔の策略などを全く知らずとすることなく、この世の中を歩んでいくなら、間違いなく、私たちは悪魔の策略や惑わしに引っかかってしまいます。皆さん、覚えてくださっています？ エペソ 4 章で、イエス様が、牧師や教師たちを御立てになった理由が書かれていました…が、そこに何とあったでしょう？ エペソ 4:11-15 をお読みします、『11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。 12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、 13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身だけにまで達するためです。 14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたせられたりすることがなく、 15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。』とあるように、私たちが惑わしを受けたり…、様々な教えの風に吹きまわされたり…、この世の中の波にもたせられたりしないためには…、私たちがしっかりと聖書のみことばを学んでいき…、そして、その学んだみことばを実践していく必要があるのです！

もう、私たち…、何度も、何度も学んできましたが、「クリスチャンになったから、もう安心だ…。イエス様を信じて救われたから、もう、これで真理の内を歩んでいける…。」というようなことは、ありません。前回にも言いましたように、イエス様を信じたところがスタート地点なのです！真理を知って…、神様のものとされたからこそ…、この世との摩擦が生じ…、様々な迫害や患難などといったようなものを経験するのです。それも、これも…、私たちが、この世を一時的に支配している悪魔に敵対する者となったからです！

ですから、どうぞ、みことばが語ってくれている様々な教えに対して…、まずは、もっと関心を持ってください！…私たちがクリスチャンは、どうしたら、悪魔の策略に対して立ち向かい…、その中で、日々、勝利していくことができるのか？ちゃんと、聖書のみことばは、私たちに、その対抗策を教えてください。今日は、特に、エペソ 6:15-17 の部分を学んでいきたいと思いますが、これまでの話の流れもありますので、初めに、エペソ 6:10-17 をお読みしたいと思います。

10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。

11 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。

12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天に

いるもろもろの悪霊に対するものです。

13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。

14 では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、

15 足には平和の福音の備えをはきなさい。

16 これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。

17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のこばを受け取りなさい。

### I・神様の「力」をいただく！(10-12 節)

私たちが、悪魔との戦いに勝利するために必要なこと…、まず、このみことばが教えてくれていることは、神様からの“力”をいただく、ということでした…。まずは、これまでのことについて言い足りなかったこともあるので、少しだけ簡単に復習させてください…。

ここ、11 節に、『悪魔の策略に対して…』とあるように、悪魔は私たちのことを、まず間違いなく、直接的には攻撃しません…。悪魔からの攻撃とは、例えば、「私たちが惑わせる」ことです…。この世の中全体に、大きな…、間違った潮の流れを作って、その中に、私たちクリスチャンだけでなく…、たくさんの未信の方たちも巻き込んで…、少しでも多くの人たちを惑わせることを、悪魔は計画しているのです！

でも、先週、私たちが学んだように、悪魔ができるのは、私たちが惑わせたり、多少の被害を与えることだけです。悪魔は、私や皆さんに、罪を犯させることはできません。最終的に、罪を犯すかどうかを判断し…、それを選択するのは、私や皆さん自身なのです。だから、神様は、その罪を犯した責任をアダムやエバに対しても問われたいし…、私たちに對しても問われるのです！だからこそ！私たちに、神様の力が…、神様の助けが必要なのです！

### II・神の「武具」を、しっかりと手にしていこう！(13-17 節)

先週に私たちが学んだことは、神様の与えてくださる“武具”というものを、私たちがしっかりと手にしていく、ということでした。それなしに…、弱く、愚かな私たちが、恐ろしく狡猾な悪魔と、そのグループに対して立ち向かっていこう…ということに到底、できないからです…。

みことばは命じています、「今すぐに、神の武具を取りなさい！悪魔との戦いの備えをしなさい！」って…。何故なら、今もう既に、みことばが言う、『邪悪な日』になりつつあるからです！イエス様が教えてくださった世の終わりが、もうすぐそこまで来ているからです！でも、世の人たちは、そうは感じません…。それどころか、「益々、この世の中は便利になり…、多くの方は幸せになっていっている…」と思われるかも知れませんが…。

しかし、聖書のみことばは、どう教えてくれているのでしょうか？…例えば、2000 年前と比べて、全世界的な危機というもの、より確率が増してませんか？…例えば、新約聖書が書かれていた当時は、神様の裁きや天変地異以外に、この世界が減る可能性なんて全く無かったと思いますが、例えば、今は、ロシアが核兵器を使うことで、それが、全世界的な戦争になってしまったら、どうなります？…それと、今は、イエス

様の伝えてくださった福音のメッセージが、全世界に証しされています。あの、マタイ 24 章に記されてある預言通りです！…もう、いつ、「世の終わり」が来てもおかしくない。…そんな時代に、私たちは今、生かされているのです…。

### ① 真理 の帯(14 節)

では、今から、神の武具について見ていきましょう。『**神の武具**』の中で、1 番最初に挙げられていたものは、『**真理の帯**』でした。「帯」という装具は、最も基本的なものです、それであるが故に、無くてはならないものです。これまで、私たちが学んできましたように…、悪魔とは何よりもまず、「惑わす者、偽りの父」と言うべき存在です。ですから、それに対抗していくには、まず、私たちは何よりも、真理というものを手にしていかなければならないのです。

では、真理とは、一体、何でしょう？ヨハネ 14:6 で、イエス様は、**「こうおっしゃられました…、『わたしは道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。』…また、こうも、おっしゃられました、ヨハネ 17:17、『真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。』**⇒イエス様と…、私たちが今手にしている、このみことばこそが、数多くある教えの中で、唯一の真理なのです！だから、私たちは、しっかりとイエス様だけにとどまって…、様々な教えや価値観に振り回されることなく…、このみことばにだけとどまることが必要なのです。

### ② 正義 の胸当て(14 節)

その次に見たのは、『**正義の胸当て**』でした…。この当時、「胸とは、感情や心などをコントロールしている場所である…」と考えられていました。良いですか？私たちの感情や心が守られるためには、正義というものが必要なのです！「自分は正しいことをしている！神様が喜んでくださっている！」そういったような…、みことばに基づいた正しい歩みが、私たちの感情を平安にし…、守ってくれるのです。

だから、例えば、**1 ヨハネ 3:17-19 のみことばは、こう教えるのです、『17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真理をもって愛そうではありませんか。19 それによって、私たちは、自分が真理に属するものであることを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。』**て…。時々、残念なことは、多くの人が、様々な誘惑や自分の利益に走ってしまっ…、この正義という大事な胸当てを、自分自身で外してしまうことです。そうになってしまうと、私たちから、神様が与えてくださるような感謝や喜び…、誇りなどは失われてしまいます…。もしも、私たちが、自分の歩みを吟味するのなら、こういった部分を見直す必要があるのではないのでしょうか？

### ③ 平和 の福音(15 節)

長くなってしまっ…申し訳ありませんでしたが、そこまでが、これまでに学んできた内容です。…その次に、みことばが挙げてくれている神の武具は、『**平和の福音**』です。皆さんもよくご存知のように、この『**福音**』という言葉は、元々、「勝利を知らせるニュース」という意味でした。しかし、それが、新約聖書の時代になると、もっと限定された意味で…、「イエス様の生涯(マルコ 1:1) やそのメッセージ(使徒 20:24)、また、何よりも、そのほとんどがイエス様を通して与えられる救い」というものを意味するようになりました…。

聖書のメッセージの中で、1 番、重要で中心的なものは、明らかに、この福音であり…、救いのメッセージです。神様によって造られた人間が皆、神様に逆らって、罪を犯し…、本来ならば、永遠の地獄(以前に学んだゲヘナ)で裁かれなければいけなかったはずなのに…、何と裁く側であるはずの、神様が人間となって、この地上に来てくださって、その罰を私たちの身代わりに受けて、救いの道を用意してくださったのです！

言うまでもなく、この福音を聞き、それを受け入れた人こそがクリスチャンです。…ですから、当時も今も、この手紙を読んでいる人たちは、この救いのメッセージを受け入れた人たちを想定しています。じゃあ、この、**15 節の、『足には平和の福音の備えをはきなさい。』**とは、一体、どういう意味なのでしょう？⇒ここで言われている、『**平和**』とは、何よりも、まず、神様との平和です。私たちの罪の故に、神様と敵対関係にあったのが、この福音によって、神様との平和 & 神様との和解を手に入れることができるようになったからです。そうして…、私たちが、この福音を手に入れたことによって、本当の平和というものを、今度は私たちが多くの人たちに分け与えていくことができるようになったのです。

だから、このみことばには、『**足に…はきなさい**』というような表現があるのです。ここでは、「靴」というような言葉こそありませんが、言われている内容は、間違いなく、そういったことです。私たちは、この、『**平和の福音**』というものを…、出ていかないといけません！教会の中でだけ…、私たちの内にだけ留めていてはならないのです！ローマ 10:14 に、『**しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。』**とあるように、まず、この、『**平和の福音**』を知って、それを受け入れた私たちが語っていかなくて…、一体、誰が、福音を語っていくのでしょうか？

また、ここ **15 節には、『平和の福音の備え…』**と書かれてあります。私たちは、いついかなる時であっても、この福音を運んでいくという責任があることをみことばは教えてくれています。「備え」ということに関して…、例えば、**1 ペテロ 3:15** には、『**むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求めると、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。』**と、ペテロは勧めてくれています。また、パウロは、牧会者であったテモテに対して、『**2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。3** というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、**4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。』(II テモテ 4:2-4)** ということを教えてくれています。もう1つ、イエス様が昇天される時、弟子たちに対して、『**18 …わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。…』(マタイ 28:18-19)** と命じられました。そのように…、クリスチャンである私たちには、大切な…、また、素晴らしい務めが与えられているのです！

悪魔の願いは、少しでも多くの人たちが救われぬことです…。悪魔は、私たちが伝道することを、決して願ってはいません…。悪魔は、少しでも多くの人たちが永遠の滅びに下ってしまうことを願っているのです。だから、みことばは言うのです、「悪魔の惑わしに陥ってはならない！あなたに与えられた、素晴らしい務めをおろそかにしてはならない！あなたは、人々に本当の平和を…、祝福を与えることのできる神の使者なのだから！」ということ、みことばは教えてくれているのです…。この混沌とした世の中で、多くの人たちが、自分に与えられた人生の、本当の意味を知らずに…、真の造り主なる神様を知らずに生きてしまっています…。そんな中で、クリスチャンである私や皆さんだけが、本当の素晴らしい、平和の福音のメッセージを伝えていくことができるのです！

### ④ 信仰 の大盾(16 節)

4つ目に挙げられている神の武具は、『**信仰の大盾**』と言われるものです。ここで言われている『**大盾**』とは、所謂…、片手で十分持てるような、円形の小さな盾のことではありません…。楕円形で…、からだ

全体がすっぱりと隠れてしまう程の大きな盾のことなのです。だから、16 節でも、『これらすべてのものの上に…』ともあるわけです。そして、みことばは、信仰こそが、そういったような働きをしてくれると教えるのです。

戦において、私たちがまず考えるべきことは、相手の攻撃を少しでも早く…、また、たくさん防御することです。特に厄介なのは、遠くから飛ばされる「弓矢」でしょう…。まず、弓矢などの飛び道具による攻撃などを防がなくては、私たちは敵に近づくことさえ難しいでしょう…。なかでも、ここ 16 節で挙げられている『火矢』というものは、普通の矢の先端部分に、麻などを巻き付けて…、それに樹脂などをひたして、火を付けて、放つものです。この矢が飛んでくると、たった1本でも、それが後になって、大火事になったりするから大変です。

悪魔からのそういった攻撃を防いでくれるのは、『信仰の大盾』です。じゃあ、信仰とは何でしょうか？…確かに、信仰とはイエスを信じることであり…、私たちが救いに導くために、神様が与えてくださったプレゼントです。しかし、ここで、私たちが勘違いしてはならないのは…、ここで言われている『信仰の大盾』とは、イエスを信じて、救われた者のすべてが必ずしも持っているものではない、ということです。もしも…、ここで教えられている『信仰の大盾』というものが、信仰そのものを指すのなら…、クリスチャンに宛てて書かれた、この手紙の中で、敢えて、「イエスを信じる信仰を持ちなさい！」なんて言うはずがありません…。しかも、命令形で…。そうじゃありません？

実は、ここで命じられてある信仰とは、恐らく、「信頼」と言い換えた方が近いのかも知れません。いつも言うことですが、ギリシヤ語には、「信仰」と「信頼」の区別がありません。どちらとも、同じ単語の「ピステイス」(πίστις)を使うからです…。確かに、それは分かります…。聖書が教える、真の神様を信じたら…、その神様に対する信頼というものは必ず生まれるからです…。

しかし、実際のところは、どうでしょう…。例えば、クリスチャンの皆さんは、いつも、いつも…、神様だけを信頼し、一切の疑いを持つことなく歩んでいらっしゃいます？…例えば、皆さんが信仰を持った後…、たった1度たりとも、神様を疑ったり…、神様に対して不信感を持ったことはなかったでしょうか？…恐らくは、ここにおられるほとんどすべての方が、1度や2度は、神様のことを疑ったり…、神様の約束を十分に信頼できなかつたことがあるのではないのでしょうか？

ちょっと、皆さん。I コリント 12:9 のみことばをご覧くださいませ？…ここでは、イエスを信じた時に与えられる「御霊の賜物」について教えられています。少し前の 4 節から紹介させていただきますと、こうあります。I コリント 12:4-10、『4 さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。5 奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。6 働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。7 しかし、みなのおのの御霊の現れが与えられているのです。8 ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ、9 またある人には同じ御霊による信仰が与えられ、ある人には同一の御霊によって、いやしの賜物が与えられ、10 ある人には奇蹟を行う力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。』

⇒皆さん、ここで私が何を言いたいのか、分かってくださいます？…今、お読みした 9 節に、『またある人には同じ御霊による信仰が与えられ…』という部分がありましたでしょ？もちろん、このみことばも、クリスチャン相手に書かれているわけですから…、当然、信仰を持っているはずの人たちのことについて教えられているわけです…。ですから、ここで言われている『信仰』とは、まず間違いなく、「救いのこと」を言っているのではなく…、「神様に対する信頼」のことであろうと思われる。しかも、それは、私たち一般人のような信頼ではなく…、私たちが驚かされ…、感心させられる程の…、一点の疑いさえもないような…、神様に対する「全き(=強い、模範的な)信頼のこと」であろうと思われる。

つまり、信仰…、この場合は、信頼と言い換えた方が良いかも知れませんが、その信頼にも、ある程度の差があることを、みことばは教えてくれています…。その上で、私たちは、もっともっと、この神様に対する信頼というものを増し加えていく必要があるのです…。確かに、今さき引用した I コリント 12 章は、ある一部のクリスチャンに、そういったような並外れた神様に対する信頼が与えられることを…、そういった人には人一倍強い信仰が…、神様からの賜物として与えられることが教えられてあります。

しかし、今日のみことばが教えてくれていることは、そうではなく…、すべてのクリスチャンたちに対する教えであり…、また、命令です。私たちは、悪魔の惑わしや策略に陥らないためにも、この神様に対する信頼というものを、もっともっと、増し加えていくことによって…、悪魔に立ち向かうことができ…、『悪い者が放つ火矢』、つまり、様々な災いの原因というようなものを消していくことができるのです。

じゃあ、私たちは一体、どうすれば、この神様への信頼を増し加えることができるのでしょうか？⇒まずは、私たちが、そのことを心から願ひ…、祈っていくことです…。例えば、ヤコブ 4:2-3 には、『2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。3 願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。』とある通りです。

そうして、次には、神様のことをもっともっと知っていくことです。私たちが信じ仕えている神様が、どのような御方で、どんなことを教え…、どんなことを私たちに願っておられるのか…、これまでに、どのようなことをなしてくださったのか？などということを知っていくことです。

そして、もう1つは、神様に従って歩んでいかれることです…。知識だけで、私たちの信仰は成長しません。ある意味、必要性が無ければ…、あるいは、私たちが活用しなければ成長しないものがたくさんあります。ですから、私たちが、今自分の持っている信仰で…、神様に仕え…、神様に頼って生きていくことです。頭だけの信仰では何も変わりません…。神様に頼って…、神様のみことばを、私たちが、一人ひとりが実践していくのです。そうすることによって、益々、神様を強く信頼していくことができるのではないのでしょうか？

## ⑤ 救いのかぶと(17 節)

今度、5つ目は、『救いのかぶと』です。言うまでもなく…、かぶとは、私たち人間にとって1番大事な頭を守るための装備です。ここで、『かぶ(る)』と訳されてあるギリシヤ語の言葉(δέχομαι)は、「受け入れる、受け取る…」というような意味の言葉です。神様の与えてくださる、救いを受け取る…、あるいは、受け入れるというような意味です。これも、先程と同じように…、私たちは、神様からの恵みである救いを受け取ったからこそ、クリスチャンになったわけです。そうですね？

しかし…、悪魔は、そういったところをも突いてくるのです！悪魔は本当に狡猾で、卑劣です…。皆さん、ルカ 22:31-34 をご覧くださいませ？『31 シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけようとして願って聞き届けられました。32 しかし、わたしは、あなたの信仰がなくなるないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちをかづけてやりなさい。』33 シモンはイエスに言った。「主よ。ごいっしょになら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」34 しかし、イエスは言われた。「ペテロ。あなたに言いますが、きょう鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言います。』という、あの有名なエピソードです…。

⇒ここで、イエス様は、非常に興味深いことをおっしゃっておられます。イエス様が、「シモン・ペテロの信仰が無くなるように祈ってくださった」というのです。ここで言われている『信仰』というの、恐らくは、「救い」と同じ意味の「信仰」ではなく、神様に対する「信頼」のことであろうと思われる。何故なら、聖書ははっきりと1度与えられた信仰は決して失うことがないと教えてくれているからです(ヨハネ 10:28; イザヤ 41:24; ローマ 8:29-30、35-39; エペソ 1:3 など)。

だから、今お読みしましたみことばでも、『だからあなたは、立ち直ったら…』とあるのです。「もう一度、救いを取り戻したら…」というような表現ではありません…。ここで使われている言葉は、「もう一度帰るとか、立ち返る…、振り向く…」というような意味の言葉で、「失くしたものを取り戻す、奪い返す…」などというような意味の言葉ではありません…。実際、イエス様の予告通り、イエス様を3度否定したシモン・ペテロでしたが、それは、イエス様に対する信仰を失ってしまったわけではなくて…、いのちの危険を感じて、怯えてしまった故に…、一時的に、イエス様のことを否定したというのは、誰の目にも明らかですよ…。

サタン…、つまり、悪魔は、ノンクリスチャンだけでなく…、私たちクリスチャンをも惑わします、あの手この手を使って…。悪魔は、私たちがさも救われていないように感じさせたりもします。「お前は、本当はクリスチャンじゃない…。救われていない！だから、教会になんか行かなくても良い…、好き勝手に生きたら良いのだ！お前は天国になんか行けない！いや、そもそも、本当は、神様も天国も無いんだ！」って…。そこは、私たちが1番大事に守らなければならない部分です…。

だから、今日のみことばでは、『救いのかぶと』とあるのです。1テサロニケ 5:8 には、これとよく似た表現で、このように書かれています。『8 しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶとしてかぶって、慎み深くしていきましょう。』とあります。今日のみことばとよく似た表現でしたが、『救いの望み…』とありました。悪魔ができることは、所詮、惑わしにしか過ぎません…。悪魔は、相手が誰であろうと、そこから救いを奪うことはできません…。しかし、悪魔は、その救いが幻であるかのように思わせるのです。「お前は救われてなんかいない…。いや、そもそも、救いも、真の神も存在しないんだ！」って…。

だからこそ、私たちは、しっかりとみことばに立って…、みことばが何と教えてくれているのか？救いとは何なのか？一体、どのようにしたら救いを得ることができるのか？自分は、本当に救われているのか？本当に、私は、確実に天に行くことができるのか？ということ、しっかりと吟味し…、みことばから、確信を得なければならないのです！悪魔は、私たちのいい加減な考えや自分勝手な思い込みなど簡単に打ち砕いてしまいます…。だからこそ、私たちは、(聖書を指して)しっかりと、この聖書のみことばに立つ必要があるのです！

## ⑥ 御霊の剣(17節)

最後は、皆さんもよくご存知の通り、幾つかある武具の中で、唯一、攻撃することのできる武具です。実際、イエス様も、悪魔によって誘惑された時、イエス様は、みことばによって、勝利なさいましたよね…。何故なら、みことばこそが、悪魔が最も嫌う…、真理の武器だからです！

感謝なことに、イエス様は、全能の神の力をもって、悪魔に勝利なさいませんでした…。何故なら、そういったことは、私たち人間には不可能だからです。だから…、イエス様は、私たちが模範とできる方法で…、悪魔の誘惑に対して、勝利してくださったのです！

ヨハネ 13:15 で、イエス様は、こう教えてくださいました、『わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしはあなたがたに模範を示したのです。』って…。しかし、残念なことに、時々、私たちクリスチャンは考えてしまいます…、「みことばだけでは不十分だ！」って…。聖書のみことばだけではなくて…、私たち人間が持っている最新の知恵や研究の成果、あるいは、これまでに築き上げてきた学問や常識など…。そういったものが必要だと考えてしまうのです…。いや、もっと残念なのは、そういった人間の考えや学問の方が、すべてを御存知である神様からの啓示以上のものである…、というようなことを、私たちクリスチャンが考えてしまうことです…。

例えば、進化論や心理学…、あるいは、精神医学などがそうです。あるいはまた、カトリック教会の修道院など…。残念ながら、今日は時間が無いので、そういったことは詳しくお話しできませんが…、様々なものが、神様のみことば以上の存在になってしまったところに、現代のキリスト教会の問題点があるように、私などは思っています…。だって…、私たち人間の知恵や学問…、あるいは、力などは、悪魔に対抗できるような、『神の武具』ではないからです。

聖書のみことば“だけ”が、様々な悪魔の惑わしに対して、自分の身を守るばかりか…、悪魔の策略を壊すことのできる唯一の武器なのです。だから…、私たちは、聖書のみことばを学び、そのみことばに立って、そのみことばを広めていく必要があります。何故なら、それこそが、悪魔の作るこの世の流れを少しでも良い方向に変えることができるからです。だからこそ、何度も言いますが、私たちクリスチャンには、みことばが必要なのです…。みことば“こそ”が必要なのです…。

ここ17節では、『御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。』という表現が使われています。しかし、これは一体、どういう意味なのでしょう？…だって、私たちは今、神様のお言葉である、みことばのすべてを、もう既に、手にしているじゃないですか？そうですよね！

⇒実は、確かに、そうです！神様からの啓示は、もう既に終わり…、私たちは、神様のお言葉のすべてを手にしているのです！しかし…、じゃあ、私たちは、みことばのすべてを正しく理解できているでしょうか？あるいは、そのみことばを完全に実践できているでしょうか？あるいはまた、学びに関してはいかがでしょうか？私たちは、しっかりと、みことばを日々、貯えているでしょうか？…正直、そういったことに完全や完成は有り得ません…。

## <励ましの言葉>

クリスチャンの皆さん…、悪魔とそのグループは、非常に巧妙です。もしも、私たちが悪魔の力や悪魔の策略といったものを意識していかないと、必ず、そこにスキができます…。例えば…、

- ①皆さんは、いつも、神様をほめたえ…、神様に心からの感謝を捧げておられます？
- ②あるいは、自分のような者が救われたことを、本当に、感動をもって、神様に感謝しておられます？
- ③また、皆さんは、すべてのことを、みことばによって理解し…、判断しようとしておられます？
- ④救われた者として、それにふさわしく生きようとしていらっしゃるでしょうか？
- ⑤みことばを常に学び…、その学んだみことばを実践しようとしているかどうか？
- ⑥あなたの言葉は勿論、行ないでもってしても…、神様のことを証しようとしていらっしゃるでしょうか？
- ⑦神様だけを1番に信頼しておられます？
- ⑧神様が、必ずや、この救いを最後まで成就してくださるという、強い確信・信頼があります？
- ⑨みことばを愛し、みことばを貯えようとして…、そのための努力を惜しんでおられませんか？

もしも、私たちが、どれほど、神様からの力を受けようとしても…、神様の前に正しく生きることなくしては…、神様の武具を受けることは叶いません。また、もしも…、私たちが神様の力を受けようとするなら…、間違いなく、私たちは、みことばに沿って、歩んでいこうとしているはず。その選択を握っているのは、私であり、また、皆さんです…。

どうか、今一度、皆さんの心の中を吟味してみてください…。『私は、本当に、この神様だけを信頼して生きていこうとしているのか？みことばだけに沿って…、神様の前に正しい歩みをしていきたいと、本当に、心の底から願っているのかどうか？』って…。悪魔との戦いに勝利して、この世の中を正しく歩んでいくためには…、皆さんのそういった決心…、そこに妥協や怠り心がないかどうか、をチェックすることが必要なのです…。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。